

いしかわ

No.32

2009.3.19

の

遺跡

縄文手提げづくり



古代体験学習講座「縄文 手提げづくり」は、縄文時代から続く編み組みの技術を学ぶもので、平成21年3月1日(日)に行われました。

まいぶんセンターの随時体験メニューには、青森県三内丸山遺跡出土の「縄文ポシェット」をモデルにした“あじろ編み”による籠づくりがありますが、今回は、北海道小樽市忍路土場(おしよろどば)遺跡から出土した

石のおもりなどをもとに、“もじり編み”に挑戦しました。参加者の方々には、現代でも使われている伝統の技法に、当初とまどいもありましたが、予定時間内に仕上げる事ができ、手づくりの楽しさを満喫されました。



財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成20年度
発掘調査から

番匠遺跡

番匠(ばんじょう)遺跡は、JR北陸本線松任駅と野々市駅のほぼ中間に位置する白山市(旧松任市)番匠町地内に所在します。周辺に水田が広がる長閑な田園地帯にあり、遺跡の北東1.5kmには、国指定史跡東大寺領横江荘遺跡荘家跡などの古代の遺跡が知られています。

遺跡は、北陸新幹線建設事業に伴う事前の試掘調査によって新たに見つかったものです。その際、鞍部を挟んだ東方60mには、番匠鎌田遺跡(中世の集落跡)が広がっていることも分かりました。

発掘調査は、JR北陸本線(南側)に並行する箇所を対象に実施しました。主に、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物、井戸、土坑、溝などを検出し、これらの遺構からは、須恵器、土師器、珠洲焼、青磁などが出土しています。

掘立柱建物は3棟を数え、そのうち2棟は平安時代の建物です。建物Aは規模が2×4間(6.5m×11m)以上、建物Bが2×3間(7m×9.5m)のものであり、ともに東西方向に主軸をもちます。柱穴は、縦、横ともに1m前後、深さ60cm前後の方形をしています。柱そのものは残っていませんでしたが、内部からは須恵器の坏などが出土しています。これらの出土遺物から、2棟のうち建物Bが新しいと考えています。

井戸は1基見つかри、鎌倉時代のものになります。調査区外に延びるため、全形は分かりませんが、直径3m、深さ2m程度と推定され、調査区外となる箇所に井戸枠が残っている可能性があります。内部からは珠洲焼、青磁などが出土しました。

以上、平安時代から鎌倉時代を中心に営まれた遺跡であり、平安時代の建物は、規模が大きいことから、公的施設の可能性も考えられます。また、鎌倉時代は井戸跡のみの確認ですが、番匠鎌田遺跡を含め、周辺に集落跡が広がっている可能性があります。



調査区中央部完掘状況(西から)



掘立柱建物(東から) 写真手前:建物A 奥:建物B



掘立柱建物柱穴 須恵器出土状況

七尾城跡

七尾城は、能登国の守護畠山氏が16世紀代に築いた日本有数の規模をもつ山城です。難攻不落の備えとともに、山麓には広大な城下をもち、京都とつながりの深い独自の能登畠山文化を繰り広げ繁栄しました。

一般国道470号能越自動車道(七尾氷見道路)建設に伴う七尾城跡の発掘調査は、平成17年度の着手から数えて、今年度が4年目となりました。平成17～19年度は、木落川と庄津川にはさまれた範囲を調査し、鍛冶や染め物などを扱う商工業者の町屋跡(H17・18)、本丸へ向かう大手道や城の防御となる総構(そうがまえ)、家臣団の屋敷跡(H19)などを確認しました。

また、出土品では大量の土師器皿や陶磁器などのほか、金を溶かした坩堝、甲冑の一部、硯や基石などの多彩なものがみつかっています。

今年度の調査は、平成17・18年度調査区に隣接する庄津川の西側3,440㎡を対象としました。調査区の西隅には、幅2～3m、深さ1m余りの区画溝と思われる溝が延び、その東側に掘立柱建物や石組みの井戸が多数確認されました。

遺物は、これまでも多くみられた16世紀代の土師器皿をはじめ、食器としての輸入陶磁器や国産の瀬戸・美濃陶器、漆絵を施した漆器椀、貯蔵・調理具の越前焼、珠洲焼、備前焼の甕や播鉢などが出土しました。

今後は、こうした総構の外側における集落跡の展開を踏まえ、七尾城下町の形成、構造、変遷等を明らかにしていきたいと考えています。



調査(南)区完掘状況(北から)



掘立柱建物



石組みの井戸



土師器皿出土状況

平成21年度 まいぶんセンター行事案内

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	

古代体験学習講座

事前申し込みが必要です。
また、小学校4年生以下は、
保護者と一緒に体験してく
ださい。

4/25～5/6 ゴールデンウィーク 手形・足形&王者のがぶとづくり

4/27～5/7 加賀郡勝示札春季公開

5/24 古代体験学習講座 縄文暮らし体験 募集：小学校5年生以上30人
募集期間：4/13～5/20

5/31～6/28 まいぶん考古学講座 「ワザの考古学」(毎週日曜日の13:30～15:00)

第1回 5月31日「縄文人のワザ」

第4回 6月21日「平安時代のワザ」

第2回 6月7日「弥生人のワザ」

第5回 6月28日「江戸時代のワザ」

第3回 6月14日「古墳時代のワザ」

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	

7/5・12 体験型「まいぶん出陣」のと・カガをねる 能登：7/5 13:30～：羽咋市歴史民俗資料館
加賀：7/12 13:30～：白山市市民工房うらわし

7/17～8/31 いしかわの発掘展「モノの記憶～古人の知恵・ワザ・ころろ～」

7/18～8/10 製作「はじわ」づくり

7/25・8/8 親子の発掘体験教室 募集：小学校4～6年生とその保護者各20組

9/13 古代体験学習講座 縄文土器づくり 募集：小学校3年生以上20人
募集期間：7/21～9/9

9/18～10/5 加賀郡勝示札秋季公開

9/19～23 シルバーウィーク いろ・色・まが玉づくり

「まいぶん・
バックヤード・ツアー」
(8/17～31の平日)

出前考古学教室

学校や公民館などへ職員が出かけ、
遺跡からの出土品などを活用して、
体験学習・ミニ展示・ミニ講座・
報告会などを行います。

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

12月限定メニューは
木蘭 年賀状作り

まいぶん友の会

～会員募集中～

まいぶんセンターが実施する発掘調査
や各種行事など、「まいぶん情報」の提供
が受けられる会員制情報サービスです。
(会費：年額1,000円)

1・2月限定
メニューは

古代
はたおり体験

10/3・4 古代体験まつり

10/25 古代体験学習講座 須臾器づくり 募集：小学校5年生以上20人
募集期間：8/31～10/21

11/1～11/7 いしかわ教育ウィーク 体験 古代の文房具(木簡・南硯づくり)

11/15 講座 考古学最前線 (13:30～石川県立美術館ホール)

11/29 古代体験学習講座 青銅祭器づくり 募集：小学校5年生以上20人
募集期間：10/5～11/25

1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

2/28 古代体験学習講座 古代のスイーツ 募集：小学生以上20人
募集期間：1/12～2/24

3/7 発掘報告会 「いしかわを掘る」(13:30～石川県立生涯学習センター)

平成21年度 古代体験メニュー

まいぶんセンターの 個人・団体古代体験

個人の随時体験は**予約不要・無料**で、
月替わりのメニューを体験いただけます。
団体体験・施設見学については、**平日・**
要予約です。

体験 古代の文房具（木簡・陶板・土版）づくり★



組みひもづくり★



夏休みはにわづくり★



土版・土版づくり★



古代の衣装を
着てみよう

まが玉づくり★



古代縄張り皿づくり★



ペーパークラフト★



火おこしに
チャレンジ

縄文アングングづくり★



縄文アクセサリー★



手形・足形づくり★



縄文かごづくり★



この他にも色々な体験
メニューが楽しめます。

- ★…作った作品は焼成後に返却します。
- ＊…作った作品はそのまま持ち帰れます。





平成20年度 講座・考古学最前線「弥生の始まりと北陸」

平成20年11月9日(日)、石川県立生涯学習センターにおいて、「弥生時代最新事情 弥生の始まりと北陸」と題して、駒澤大学文学部教授設楽博己先生にご講演いただきました。

設楽先生には、縄文時代から弥生時代の祖先観や墓制などについて、その関連性や相違点をたくさんの写真とともにお話しいたいただき、人骨が多数出土した墓のスライドなどに、参加者の皆さんも興味深そうに見入っておられました。

また、北陸の土器の文様と銅鐸のそれとの類似などから、当地の土器が銅鐸の成立に大きな役割を果たしたのではないかなど、まさに考古学の最前線にふさわしい研究成果をご披露いただきました。

参加された130人の方々には、研究の進展により、考古学が日々前進していくありようをご理解いただけたのではないかと思います。

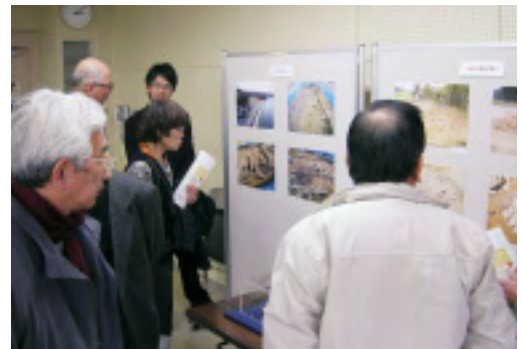


平成20年度 発掘報告会「いしかわを掘る」

平成20年度、石川県下では70数件・8万㎡余の発掘調査が行われました。そのなかの主な成果を担当の調査員が発表する本報告会は、平成21年3月8日(日)、石川県立生涯学習センターにて開催され、能登町から能美市まで、6件の報告が行われました。

報告は、弥生・古墳時代では、野々市町三日市A遺跡の集落跡と能美市能美古墳群の保存整備の概要と確認調査の成果、奈良・平安時代では、七尾市大泊A遺跡の製塩炉と白山市横江荘遺跡の大型施設、中世では、能登町松波城跡庭園跡の枯山水遺構と七尾市七尾城跡の集落跡と多様なものがあり、なかでも、横江荘遺跡では、方形に巡る回廊状大型区画施設の中に大型掘立柱建物などが確認され、寺院あるいは郡庁など官衙施設の可能性が報告されました。

当日参加された150名の方々には、これら最新の調査成果などに熱心に耳を傾けておられました。



収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。
今回のテーマは「石に刻まれた暮らし」です。

収蔵品No.19

ナイフ形石器 ^{がたせっき} — 能美市 ^{とだしのしも} 灯台笹下遺跡 —

石器は、人類と最もつきあいの長い道具の一つで、モノを切る、動物の皮をなめす、木を削る、木の実を磨りつぶすといった、暮らしの様々な場面で使われてきました。

石川県では、出土した石器から、およそ3万年前には、人々が生活しはじめたことがうかがえます。現在よりも寒さの厳しい旧石器時代に、人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか？当時の人々が使っていた道具には、石以外にも木や骨・角を素材としたものがみられますが、日本の土壌では腐りやすいため、そのほとんどは残っていません。そのため、当時の人々の暮らしぶりをうかがう最大の手がかりとなるのが石器です。石器は、私たちに当時の生活の様子を語りかけてくれる雄弁な「語り手」なのです。

下の写真は、灯台笹下遺跡から出土したナイフ形石器です。「切る」や槍先などの「突く」道具として使われていたもので、切れ味の鋭さが求められるものです。石製とはいえ、復元製作した石器の切れ味を、まいぶんセンターの「出前考古学教室」などで体験していただくと、その鋭さに驚きの声があがる程です。しかし、どんな石でも、その鋭さが得られるというものではありません。石の特性を見極めた素材選びが重要なポイントになります。特に、右端の黒曜石(こくようせき)は、長野県など限られた地域でのみ採集できる当時の「ブランド品」ともいえる石材で、その切れ味は手術用のメスにも劣りません。とはいえ、良い素材を持っていたも、それを活かす技術が伴わなければ、良い道具は生まれません。灯台笹下遺跡のナイフ形石器には、東北地方をはじめ、関東地方や瀬戸内地方の作り方と似通った特徴がみられることから、東西日本の多様な石器文化や技術が暮らしに息づいていたことがわかります。



このように、当時の人々は、石の特性を知り、時にはその素材を求め広大な地を移動し、様々な地域の人々とふれ合い、文化や技術交流をしていたことがうかがえます。知恵や技術、人と人とのつながりなど、刻み込まれた様々な暮らしの形跡を、「石」は現代の私たちに語りかけてくれるのです。

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 さんでんかなや 散田金谷古墳

羽咋郡宝達志水町の散田金谷古墳は、子浦川と向瀬川に挟まれた低台地上に立地しています。長径約21m、短径18.5mの長円形の円墳です。横穴式石室は、玄室の長さ5.72m、奥室幅2.65m、高さ2.76mで、花崗岩を用い構築されています。凝灰岩製の家形石棺(長さ2.3m、幅1.1m、高さ1.27m)が置かれていました。築造年代は6世紀第4半期と推定されています。越中への交通路に面しており、被葬者は当時この地域を支配した族長であると考えられています。

志雄谷と呼ばれる周辺地域は、能登でもっとも早くから古墳研究が行われた地域の一つで、その中でもこの古墳は、明治36(1903)年に最初の調査が行われ、鉄製の武具・馬具、耳環(金属製の耳飾)、須恵器などが見つかっています。これらの遺物の一部は、東京国立博物館と地元の成正寺に保管されています。古墳は昭和57(1982)年度に国史跡、また、家形石棺は昭和45(1970)年に県の有形文化財に指定されました。

昭和59～63年にかけて、石室解体修築と墳丘復元の工事を行い、史跡整備されましたが、石室内への水漏れが見つかり、平成18・19年度に一部解体修理と石棺の保存処理などが行われました。

同じ台地には、石坂鍋山古墳群があり、あわせて「桜の里・古墳公園」として整備されています。



石棺の保存処理

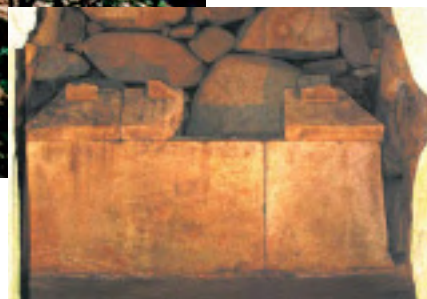


古墳全景

所在地：羽咋郡宝達志水町散田

交通：能登有料道路今浜ICから車で13分

お問い合わせ：宝達志水町教育委員会生涯学習課
電話 0767-28-5518



家形石棺